

立教英国学院保護者会

2020年8月22日/23日

- 1) 9月帰寮に備えて
- 2) イギリスの感染状況
- 3) ヨーロッパの感染状況
- 4) リスクアセスメント
- 5) 授業
- 6) 生活
- 7) 寮生活 持ち物一覧 保護者 구글アカウント
- 8) コロナウイルス掲示板
- 9) ビザ（新入生）
- 10) 文部科学省将来ICT構想 実証事業条件付き採択
国際交流
- 11) 保健室対応

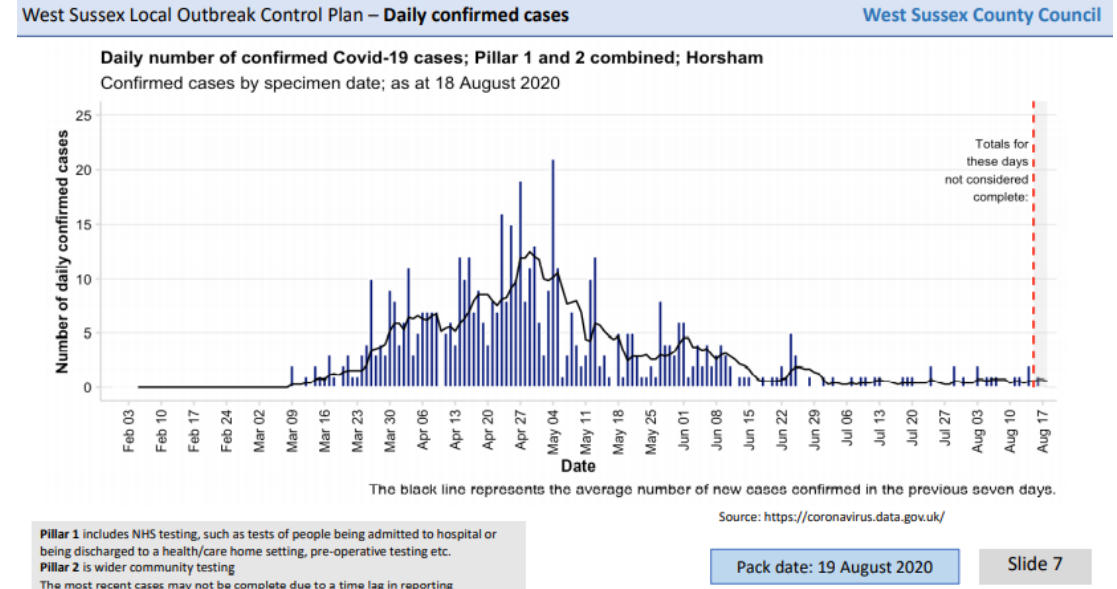
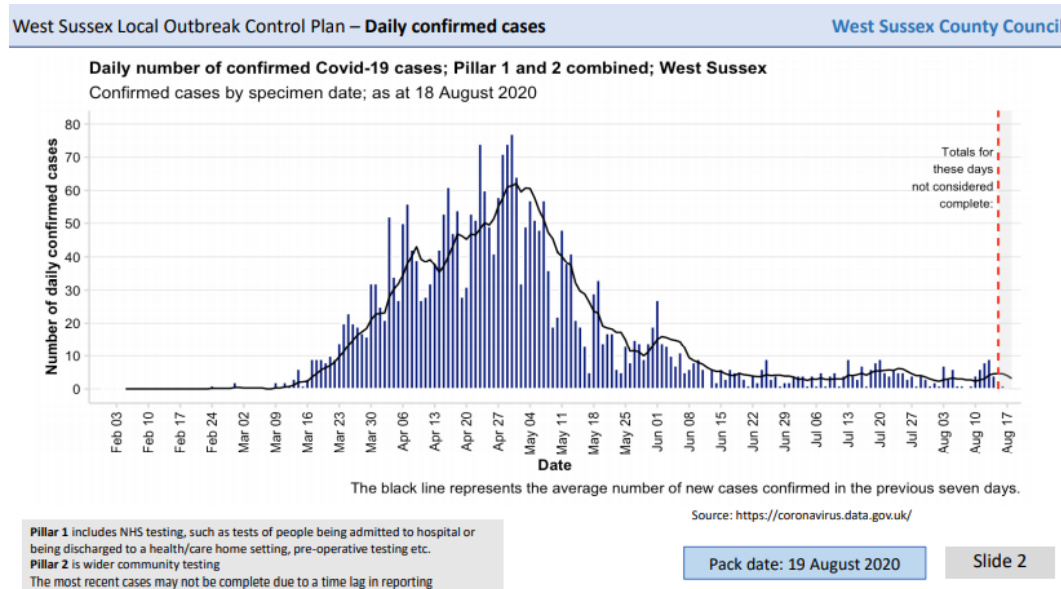
英国での感染状況

West Sussex 10 Aug-16 Aug 33cases/week 5cases/day +14/week

Surrey 104 cases/week +54/week

UK new cases 1033cases, Death 7 cases on 21st Aug 2020

Japan new case 1036 cases, Death 15 cases on 21st Aug 2020



ヨーロッパでの感染状況

EU/EEA and the UK	Cases	Deaths	14-day cumulative number of COVID-19 cases per 100 000
Spain	377906	28813	145.0
United_Kingdom	322280	41403	21.2
Italy	256118	35418	11.5
France	229814	30480	51.0
Germany	228621	9253	16.5
Sweden	85810	5805	37.6
Belgium	80084	9976	54.5
Romania	74963	3154	87.9
Netherlands	64992	6182	46.3
Poland	59378	1925	26.0
Portugal	54992	1788	28.5
Ireland	27676	1776	26.6
Austria	24608	729	33.0

リスクアセスメント

Rikkyo School Covid-19 Risk Assessment

リスクをただ心配したり、不安に思ったりしないで、どのような対応によりそのリスクを回避することができるのか。

リスクの起こりやすさ Likelihood

Likelihood x Severity = Risk Matrix

リスクの重大性 Severity


Likelihood		Severity	
5	almost certain	5	death
4	very likely	4	major illness / injury
3	likely	3	Lost time / reportable injury
2	may happen	2	minor injury or illness
1	unlikely	1	insignificant injury

Risk matrix		Severity				
		5	4	3	2	1
Likelihood	5	25	20	15	10	5
	4	20	16	12	8	4
	3	15	12	9	6	3
	2	10	8	6	4	2
	1	5	4	3	2	1

立教英国学院保護者会

リスクの可能性の減少

1. Eliminate or avoid the hazard altogether
2. Substitute the hazard for a less potent risk or product
3. Isolate the hazard
4. Isolate the people from the hazard
5. Reduce the number of people exposed to the hazard
6. Reduce the exposure time of people exposed to the hazard
7. Information, training, and supervision of hazard control procedures
8. Use PPE including RPE to prevent inadvertent exposure where none of the above can prevent exposure

Risk Assessment			Issued by:		Roger Read, SCL			Page 1 of 30			 <div>RIMIKYO SCHOOL IN ENGLAND 立教英国学院 — 立教大学附属校 創立 1972年 —</div>					
			Date of issue:		August 2020											
Task:	Attendance at Rikkyo School				Location:	Rikkyo School			Date:	Ongoing						
	Process step		Hazard		People affected / method of infection		Existing risk			Controls required to reduce risk to as low as reasonably practicable				Residual risk		
							S L R 1-5 1-5 SxL							S L R 1-5 1-5 SxL		

1. RETURNING PUPILS The condition in which the pupils return is critical to the entire management of COVID-19. It cannot be anticipated that they or their parents are themselves in a sufficiently knowledgeable and competent position to accurately assess the exposure level or exposure condition during the journey to the school. The school must therefore use this assessment to inform and guide those travelling to the school and to support the pupils' preparations in avoiding contamination with the disease. It is anticipated that the aircraft journey will be of a minimum period of 18 hours including check in/security waiting time. It is therefore based on this that the need for nutrition and medicinal aid, contact with unknown others at check-in and in departure and arrival areas is considered. The control and management of C-19 is unknown on the day of the journey in advance; during a 24 hour period, infection symptoms can begin to show as the testing is not 100% reliable. Airports and airlines have all made some improvements in managing COVID-19, but these will be made as a minimum measure and all people										
1.	Pre-flight preparation Things to do in advance	Documentation or check in at airport	Contact infection	4	4	16	Check in online Use baggage drop machines Complete questionnaires online Look at the airport website for COVID-19 video or information	4	2	8
2.	Transportation to school by plane or public transport or taxi	Infected at home or en route to airport	Contact or air. Relatives or others unknown	4	4	16	Testing at home Testing at airport Travel restrictions Minimise people attending with pupil Information on school policy Information about travel section risk assessment Personal protective equipment - Personal cleaning wipes	4	2	8
3.	Airport / aircraft journey	Infected at airport/ aircraft	Contact or air Category risk of geographical area/airport	4	4	16	Personal protective equipment inc RPE Distancing Journey planning to minimise contact Development of symptoms on plane - Take first aid/medicine in hand luggage within liquid limits Use distance limitation when in queue Avoid contact with other property/cases/bags/coats	4	2	8

学校での基本の決まり

- ①学年を1つのバブル（家族）と考え、
他バブルと2m以上のSocial Distanceをとって行動する。
高校3年生、高校2年生、高校1年生、小中学生
- ②同じバブル間でも、できるだけ
Social Distanceの原則を守る。（他者に触れてはいけない）

③施設は、原則としてバブル専用の場所のみを使用する。

〈例〉教室、食卓、寮内のトイレ・シャワー室など

どうしても同じ施設を使う場合には、

- ・異なるバブルが同施設内に一緒にいて、使用はしない。
- ・消毒を行った後に、入れ替え制で使用する。

〈例〉体育館、実験室

※屋外施設はこの限りではない。

※使用後に、除菌シートなどで

生徒自身に消毒してもらうこともあります。

- ④物品は、自分のもののみを使う。
貸し借りは厳禁。共同使用も厳禁。
- ⑤個人のものを共有場所に置いておくことはできない。
原則としてドミトリー内に管理。
許可されたもののみを、バブルエリアに置く。
- ⑥屋内では、必ずマスクを着用。（自室を除く）
- ⑦日常的に、手洗いや消毒をこまめに行う。

※どうしても必要な日常生活には、原則をゆるめている“例外”があります。
(ゆるめているケースの数を少なくし、健康を守るようにしています)

学校生活について

基本的な考え方

○児童・生徒、教職員の健康や安全を第一にする。

- ・無理のない学習、無理のない勤務。
- ・睡眠や休養を平常よりしっかりとらせる。教職員もしっかり休む。

○2学期をいくつかの段階に分けて進める。

- ・まずは、児童・生徒が寮で問題なく生活できるところから。
- ・9月は大幅に余裕をもって授業・学習を始める。
 - ・1学期における学びの形態は、概ね良い評価を得ることができている。それを構築した上での考え方を踏襲し、まずは児童・生徒、教職員に無理のないようにカリキュラム・時間割を編成、それに付け加えていく。

学校生活について

基本的な考え方

○教員が覚悟を決めて、「すべてを管理する」という考え方を変え、児童・生徒に任せる部分を多く作る。

- ・学年当直制度やバブルでの当直制度を作り、児童・生徒がリーダーシップをとって、自治や自律をできるようにする。
- ・児童・生徒を巻き込みながら学期を通じて段階的に考え、規則を意味あるものとし、児童・生徒がそれらを遵守できるように理解を促す。

○規則に反した児童・生徒には、帰宅措置等を含めて毅然と対応する。

- ・二学期当初のガイダンス等で、児童・生徒に理解を促す。
- ・「規則に違反した場合の帰宅に関する承諾書（案）」の提出

例：ドミトリー侵入について

○異なるバブル間の児童・生徒の接触、教員と児童・生徒の物理的な接触を避けるよう指導する。

学期初めのスケジュール

学期当初予定

9月4日ー9月7日	児童・生徒帰寮
9月6日	始業礼拝
9月7日、8日	授業なし 教室移動、ロッカー移動、 オリエンテーション、試験勉強等
9月9日ー9月12日	期末テスト (ただしM1, M2は10日ー12日で実施)
9月13日	平常の日曜日
9月14日ー9月18日	午前中授業 (午後は放課後扱い)

一日のスケジュール

	Aグループ（P,M,H1）		Bグループ（H2, H3）
7.00	起床	7.30	起床
7.30	朝食	8.00	朝食
8.15	礼拝 月曜日 P,M 水曜日 H1	8.45	礼拝 火曜日 H2 木曜日 H3
9.00-10.00	9.00-9.45授業 9.45-10.00休憩	9.00-10.00	9.00-9.15休憩 9.15-10.00授業
10.00-11.00	10.00-10.45授業10.45-11.00休憩 （ブレイク）	10.00-11.00	10.00-10.15休憩 10.15-11.00授業
11.00-12.00	11.00-11.45授業11.45-12.00休憩	11.00-12.00	11.00-11.15 休 憩 （ 11.05- ブ レ イ ク ） 11.15-12.00授業
12.00-13.00	昼食	12.00-13.00	12.00-12.15休憩 12.15-13.00授業
13.00-14.00	13.00-13.45授業13.45-14.00休憩	13.00-14.00	昼食
14.00-15.00	14.00-14.45授業14.45-15.00休憩	14.00-15.00	14.00-14.15休憩 14.15-15.00授業
15.00-16.00	15.00-15.45授業15.45-16.00休憩	15.00-16.00	15.00-15.15休憩 15.15-16.00授業
17.00-17.20 教職員打ち合わせ		放課後	
17.30-18.30	夕食	18.30-19.30	夕食
19.00	HR、その後、自習 その後、異なるバブルが 重ならないようにして寮に帰す	20.00	HR、その後、自習 その後、異なるバブルが 重ならないようにして寮に帰す
21.00-21.30	就寝	22.00	就寝

寮生活について

- ◆生徒・寮スタッフの両方の健康を守るため、寮スタッフの勤務時間中は、生徒は寮に立ち入りません。授業時間中に、寮スタッフの仕事を終わらせます。
- ◆寮内は、バブル毎に生活エリアが区分されます。バブルエリアの中に、トイレ・シャワーがあります。他のバブルエリアに立ち入ることはできません。
- ◆バブルエリアごとに、原則として1つの空き室を設け、一時的な即座の隔離ができるようにしています。

- ◆上級生には、英国の学校生活にならい、Senior Studentとして学校生活の規範となり、指導役に立ってもらいます。
- ◆最初の2週間は、接触を極力抑え、
やや出来ることを制限した生活となる見込みです。
- ◆緩みがないよう、段階をふまえて行っていく予定です。
- ◆健康を守るため、通常よりやや窮屈な生活になります。
よく理解して生活の決まりを守ってもらいますが、
メンタル・バランスを保つために、楽しみを大切にした
生活になるよう勧めていく見込みです。

〈現在検討していること〉

運動...バブルごとに、スポーツ施設の利用日を設ける。

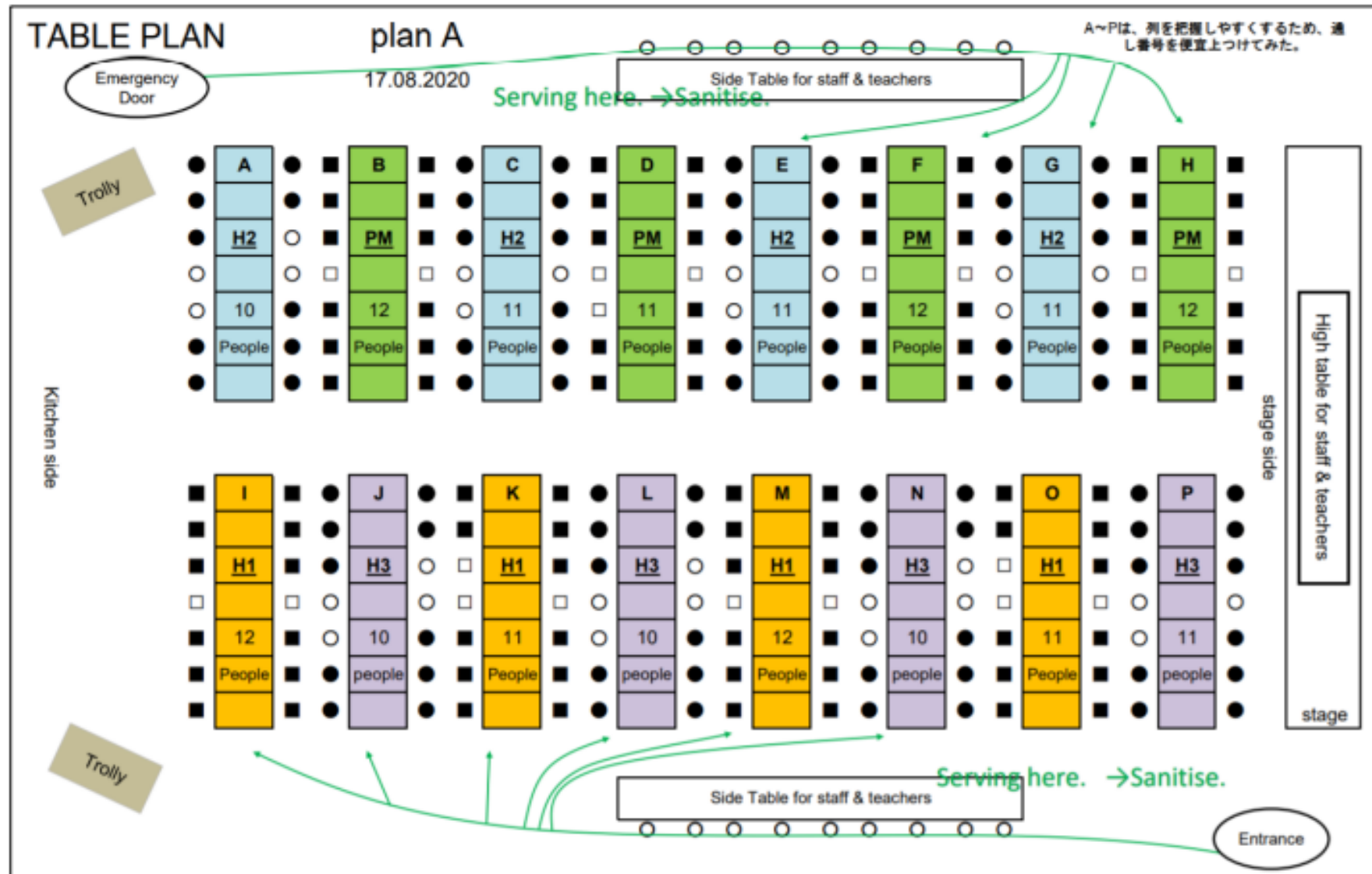
おしゃべり...寮内でWifi回線を活用し、他ドミトリー・学年・家族などと、コミュニケーションをとる。

学期を通じて、長期的に楽しく充実する取り組みを立ち上げる。
(学校と生徒の企画で)

寮・教室で、Chromebookを使って学習ができるよう、Wifi回線を整備。

※生徒会や2019年度学級委員会が、この状況に配慮し、
学校生活を楽しめるアイデアを既に提案してくれています。

Dining Table Plan (第2構想)



寮配置 女子

2020/2021 term2 DORMITORY PLAN 6th Version

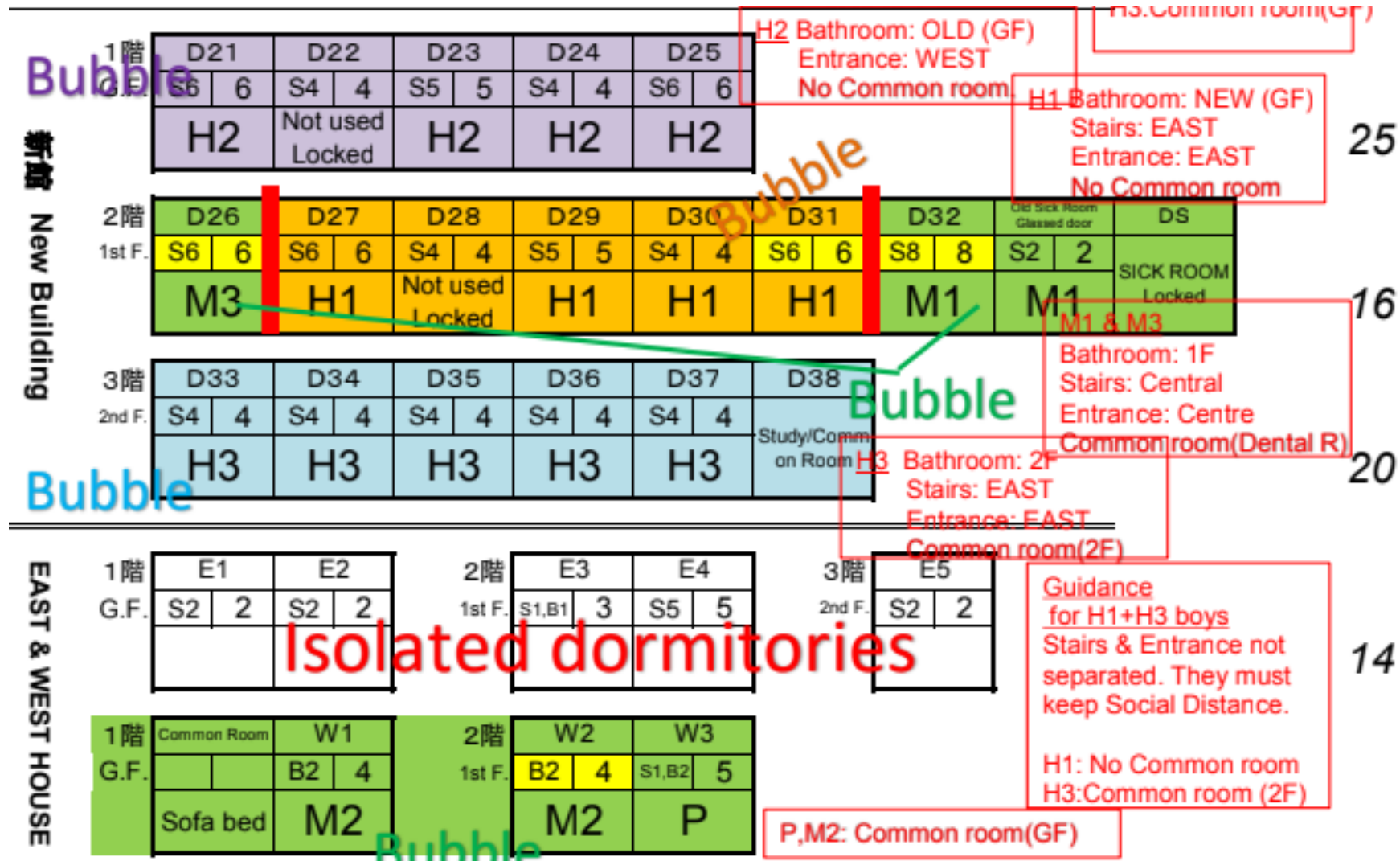
17.08.2020

本館 Main Building	1階 G.F.	DA S6 6	DB S5 5	DC S5 5	DD Entrance Shoebox	<div>P,M1~M3 Shower: GF Toilet: GF(East & West) Entrance: Dormitory D Common Room(Lounge)</div>		Capacity 11
		M3	M2	M1				
	2階 1st F.	D1 S1,B1 3 Afternoon Duty Room	D2 Old S4 4 Sick Room	<div>Shield (Curtain)</div>		<div>H1 Shower: NEW & OLD(1F) Toilet: OLD(1F) & 2F Stairs: Servants' stairs only Entrance: Main No Common room</div>		20
				D3 S5 5 P5,6	D4 B1 2 H1	D5 B2 4 H1	D6 S6 6 H1	
3階 2nd F.		D7 S3 3 H1	D8 S4 4 H1	D9 B1 2 H1	D10 B1 2 H1	D11 S2 2 Not used	D12 S3 3 H1	D14 S3 3 H1

Garden House	2階 1st F.	101 S4 4 Locked	102 S4 4 H2	103 S4 4 H2	104 S4 4 H2	105 S4 4 H2	106 S4 4 H2	107 S4 4 H2	108 S2 2 DUTY ROOM	<div>Guidance for senior students</div>		28
	3階 2nd F.	201 S4 4 H3	202 S4 4 H3	203 S4 4 H3	204 S4 4 H3	205 S4 4 H3	206 S4 4 H3	207 S4 4 H3	208 S2 2 SICK ROOM Locked	<div>Stairs & Entrance not separated. They must keep Social Distance.</div>		28

H2: No Common room

寮配置 男子



【2学期の生活を始めるにあたって、特に用意してもらいたいもの】

2020.08.21 現在

用意するもの	数	備考
マスク		布・使い捨て、いずれでもかまわない。 鼻と口を覆い、顔に合ったもの。
消毒ジェルを入れる容器	1	ポケットにに入れて持ち運びできる大きさ 中身のジェルは、学校で補充できるようにします。
バスタオル	3枚	120cm×60cm 程度のもの。 ※数が多かったり、大きすぎたり、地厚すぎたりすると、洗濯量が極端に増え、対応できなくなるので注意して下さい。 ※従来の、シャワー室用意のタオルはありません。
靴袋	十分な数	靴類は、ドミトリー内での保管になる。 体育館シューズ用、スニーカー用、スパイク用など。
体育後の着替えを入れる袋	1	着替えは体育館で行いますので、衣類を持ち運べる袋・かばんを用意して下さい。
勉強用具を持ち運べるバッグ	1	
予備の袋やかばん		物の持ち運びや保管に使えるように。 エコバッグでもよい。
【任意】 Chromebook を保管の安全ケース	1	11 インチ型用。ケースであって、カバンでなくともよい。 ※任意ですが、できれば用意するといいいでしょう。

持ち物

ヘッドフォン、またはイヤフォン	1	音声つきの学習を行うときに、周囲を気にせず使用できるようにするために。
白衣	1	全学年対象。理科の授業で使用します。 ※高2～3の、理科を受講しない生徒は不要。
帽子	1	体育の授業での運動用。
日焼け止め		体育の授業での運動用。 ※化粧と混同されない、白くならないタイプ。
縄跳び	1	一人用。(大縄ではない)

【任意】ラケット		テニス・バドミントン・卓球 ※ 個人のラケットを持っている場合は、可能であれば、持ってきてください。 ※ ボールの持ち込みは不可。
爪切り	1	自分で使うものを用意すること。
体温計	1	婦人体温計は不可。
水筒	1	寮内で飲み水をくめます。 (念のため、保温性のある機能のあるものが望ましい)
手袋(軍手でOK)	2揃い くらい	素手で触らない作業をする時のために。 体育の授業で使うこともあります。 使う毎に、必ず洗濯すること。

※すべてに記名をすること。

※健康安全のためにいろいろと物品がいりますが、収納スペースには限りがあります。消耗品で、学期を通して量が必要となる場合は、適宜ご家庭から郵送のご協力をお願い致します。なお、アルコール製品類など、航空便では郵送できないものもありますので、必ず運送会社にご確認下さい。

保護者グーグルアカウント

「大変お待たせしましたが、映像閲覧用の保護者Googleアカウントの準備が出来た旨昨日業者より連絡がありました。既に各ご家庭にそのアカウントのパスワードをリセットするメールが届いていると思います。48時間以内にパスワードの登録をお願いします。48時間を過ぎた場合は学校に連絡して頂ければ改めてGoogleからパスワードリセットメールを送るよう手配します。」

事前PCR検査のお願い

前回保護者会でも案内いたしましたが、

お互い安心して寮生活を始めるために、帰寮する生徒は在住国でPCR検査を
搭乗時刻より**72時間前**（目安）までに受けていただくことに致しました。

国内生徒も同様の扱いです。陰性だった場合には、予定通り帰寮して下さい。

陽性の場合には、自宅で治療後、帰寮して下さい。

帰寮後のPCR検査（自己負担）については、現在検討中です。

事前PCR検査により、帰寮してからのコロナウイルス感染を完全ではありませんが、
防ぐことができます。

ただし、PCR検査は**100%**の精度ではありません。

最初の**2週間**で感染者がなければ、生徒からの感染の可能性は少ないことになります。
後は教職員からの感染に集中することができます。

掲示板への回答

寮の部屋：

それぞれの寮での生徒の数はほぼ例年通りです。

それぞれのバブル（学年）でのシックルームの設置

イーストハウスをコロナ陽性の場合の隔離の場所

制服：

帰寮時に制服は着ないで下さい。校内へのコロナウイルスの持ち込みを防ぐため

です。私服を来て、帰寮したらすぐに洗濯に出して下さい。

空港での出迎えについて：

寮生活、学校生活への不安：

掲示板に書かれてもいるように、多くの生徒、保護者は帰寮すること、英国での学校生活を送ることに不安や心配を抱えています。特に今学期は今まで立教の生徒が送ってきた生活とは全く異なるものとなります。帰寮する場合には不自由さの中で制限ある生活を送ることを前向きに捉えることができるか、家庭内でよくお話しになって下さい。

新入生ビザ/在校生 更新及び書き換え

- ビザの発給状況について
- 帰寮日までにビザの発給がなかった場合
 - 新たに入寮日を2週間/3週間後に設定する予定
 - 新しい集団が学校内に入ってくるもののリスクアセスメント
- 帰寮するまではオンライン授業
- 帰寮前のPCR検査が必要
- 入寮が遅れた場合の期末試験の実施については対応を検討

高等部3年期末試験

高校3年生への期末試験対応：

高校3年生は特に9月下旬に指定校推薦選考があります。当初より、公正で公平な試験を行うことの大切さを学校は伝えてきましたが、掲示板でも書かれていますように、半ば強制的に帰寮することにより引きおこる寮生活の問題も無視できない問題です。学校としては今まで通り、帰寮して期末試験を受けることをお薦めします。ただし、長い2学期を不安と心配の中で過ごしていくことは本人だけでなく、周囲の生徒への影響も多大と考えます。このような受験を控えた高校3年生に対しては、本校東京事務所職員監督のもとで、東京池袋で期末試験を受けられるよう手配をしたいと思います。8月26日（水）までに担任宛に必ず連絡してください。この処置は他の学年では考えてはいません。高2以下の学年はまだ、試験を受けて、成績を出す機会がありますので、今回の日本での期末試験実施は考えていません。

将来ICT構想 実証事業

- 1学期のオンライン授業の質の高さが文部科学省によって認められました。
- 文部科学省補助事業「コロナ禍におけるICTを活用した教育体制構築に関する実証事業」に認定 条件付き採択

ICTで実現する「新しい教育像」

本事業の助成を受けて実現したい「3本の柱」

1. 児童生徒が安心して自主的に学べるオンライン学習環境の整備
2. STEAM教育による創造的な学びの機会と環境づくり
3. Onlineリベラルアーツ教育を通した「学校の外」との繋がりの強化

イギリスにある全寮制私学である本校は、世界21ヶ国に散らばった児童生徒に対して学びの保障のため4月からオンライン授業を実施してきた。その成果と反省を生かし本事業の助成を受け上記の3点を実現したい。具体的には、8月からのICTインフラ整備と9月からの本格運用、学期ごとの定期的な効果の検証を経て、終了時には本事業を受けての取り組みをオンライン講演会などで日本国内・外を問わず広く外部へと発信していく。(196字)

ICTを利用した新たな国際交流を目指して

- UCL-Japan Young Challeng 2020 Air 5名の生徒が参加

- タンザニアプロジェクトPhase2

従来のCollyers College/Rikkyo School共同プロジェクトを基礎に
タンザニア女性自立のための マイクロファイナンスの起業
コロナウイルスで孤立化するおじいちゃん/おばあちゃん
シニア世代の才能を利用した新たなプロジェクトの構築
現在、中3、高1、高2参加希望生徒募集中

保健室対応について

ご寄付お礼

- 今までに温かい励ましのお言葉に加えて、以下のご寄付をいただいています。御礼申し上げます。
- フェースシールド 300個
- フェースシールド 500個
- マスク 5000枚
- マスクの寄付
- マスク、フェイスシールドの寄付
- 寄付金 寮費返還辞退のお申し出 6 家庭